

勝浦市地震 ハザードマップ

揺れやすさマップ

「揺れやすさマップ」とは、勝浦市直下の地震（想定マグニチュード6.9）が発生した場合の震度分布を50mメッシュ単位で表現したものです。

凡 例	
震度階級	
計測震度	震度階級
6.50未満 6.00以上	6強
6.00未満 5.50以上	6弱
5.50未満 5.00以上	5強
避難所・避難場所	
●	避難所・避難場所
主要道路	
—	国道
—	県道
—	市道

※計測震度とは、地震計から直接得られる揺れの指標で、震度を数値で表したものです。

震度とは、地震が起きたとき、ある場所での揺れの強さを表しています。一方、マグニチュードとは、地震そのものが持っている力の大きさを表すものです。

震度階級のみかた

6強

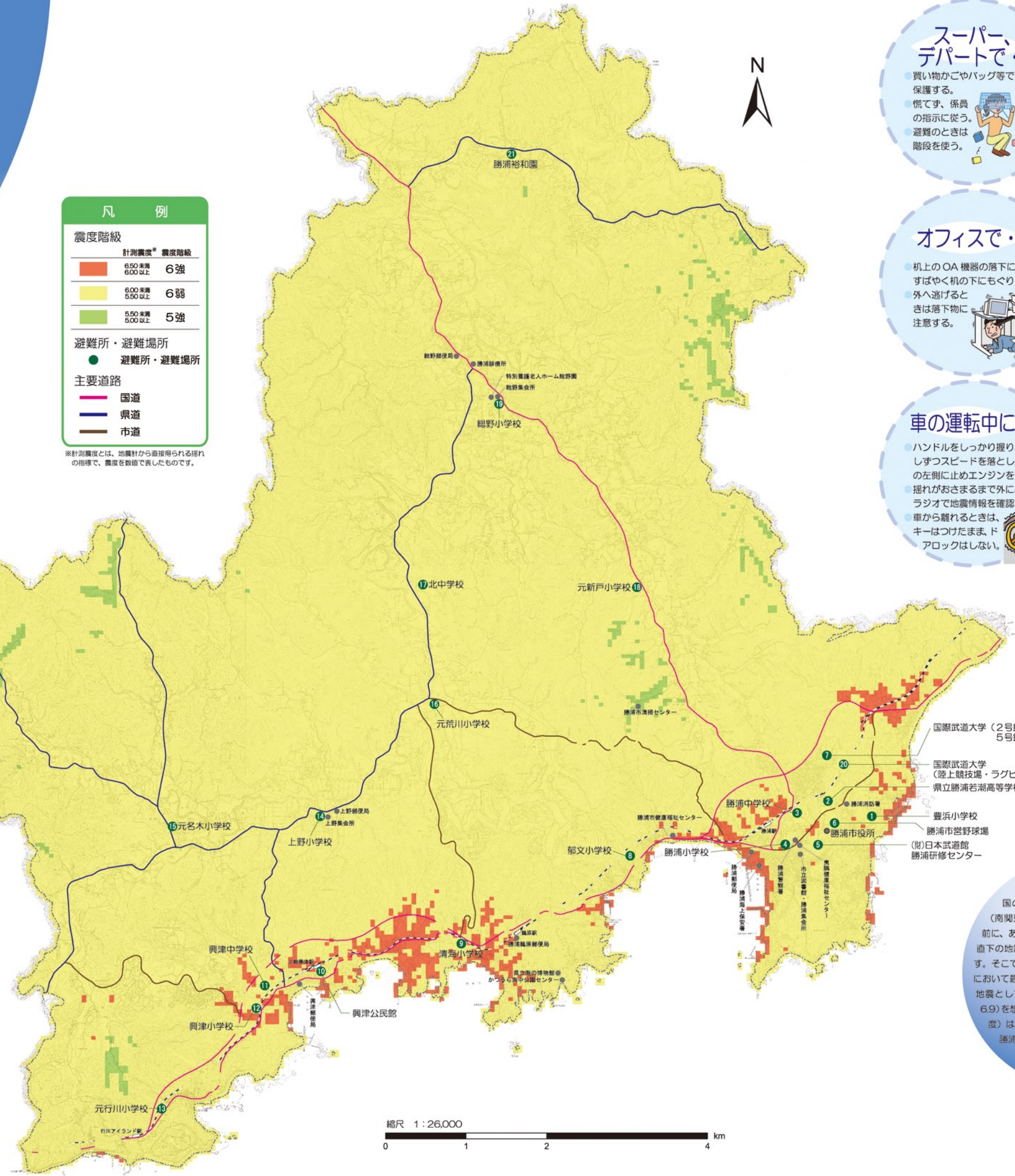
- 人間の感覚
 - 立っていることができず、はわないと動くことができない。
 - 揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。
- 建物内の状況
 - 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。

6弱

- 人間の感覚
 - 立っていることが困難になる。
- 建物内の状況
 - 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
 - ドアが開かなくなることがある。

5強

- 人間の感覚
 - 大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
- 建物内の状況
 - 棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。
 - テレビが台から落ちることがある。
 - 固定していない家具が倒れることがある。



こんな場所で地震に遭ったら

スーパー、デパートで

- 買い物かごやバッグ等で頭を保護する。
- 慌てず、係員の指示に従う。
- 避難のときは階段を使う。

学校で

- 急いで教室から飛び出さないで、まずは机の下にもぐり、頭を保護する。
- 地震の揺れがおさまってから教職員の指示に従う。

オフィスで

- 机上のOA機器の落下に注意し、すばやく机の下にもぐりこむ。
- 外へ逃げるときは落下物に注意する。

屋外で

- ブロック塀や石塀、電柱からすばやく離れる。
- ガラスの破片、看板などの落下物に注意し、持ち物で頭を保護する。

車の運転中に

- ハンドルをしっかりと握り、少しずつスピードを落とし道路の左側に止めエンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで外に出ず、ラジオで地震情報を確認する。
- 車から離れるときは、キーはつけたまま、ドアロックはしない。

家で

- 身の安全を確認する。
- すばやく火を消す。
- 窓や玄関の扉を開け、脱出口を確認する。
- 屋外に避難するときは、必ず靴を履く。

想定地震

国の調査によると、次に関東大地震（南関東地震）と同じ規模の地震が発生する前に、あらかじめ震源域が特定できない南関東直下の地震が発生する可能性が高いとされています。そこで、この地震ハザードマップでは、勝浦市において最も大きな被害が予想される南関東直下の地震として、勝浦市直下の地震（マグニチュード6.9）を想定しました。予想される地震の強さ（震度）は、市全域で震度5強から6強となり、勝浦市に大きな被害を与える可能性があります。

- 国際武道大学（2号館武道館・3号館第1体育館・5号館第2体育館・7号館第2体育館）
- 国際武道大学（陸上競技場・ラグビー場）
- 県立勝浦若潮高等学校
- 豊浜小学校
- 勝浦市営野球場
- （財）日本武道館
- 勝浦研修センター

